

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

ムラサキニセツノヒラムシ

Pseudoceros atropurpureus Kato, 1934

特徴 楕円形で、体の縁部は波打っています。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は暗紫色で、全体的に淡青色の小点が点在していますが、これが目立たず、無地に見える場合もあります。腹面にひとつの雄性生殖孔が開きます。

大きさ 体長 40 mm、体幅 25 mm。

分布 房総半島から九州までの日本。

メモ 房総半島以南の潮だまりでは、石をめくるとその裏側に付いているところがよく見られます。しかし、これまでに図鑑などで紹介されることはありませんでした。



(房総半島勝浦・潮間帯／撮影: 柳 研介)

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

サクラニセツノヒラムシ

Pseudoceros bimarginatus Meixner, 1907

特徴 体はやや細長い楕円形です。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色はピンクを帯びた白色で、中心線上に白色の縦線があります。触葉の根元は鮮やかな紫色です。縁部は4本の線で囲まれており、外から内に向かってレモン色、黒色、幅広いオレンジ色、白色をしています。雄性生殖孔はひとつ。

大きさ 体長 32 mm、体幅 18 mm。

分布 琉球列島;インド・西太平洋熱帯域。

メモ 縁部を囲む線の数や、外から内にかけての配色の順番が異なることしか違わない、とてもよく似た複数の別種があります。触葉の根元が紫色になるのは本種だけなので、これらの種類から容易に区別できます。



(琉球列島石垣島・地先／撮影: 阿久津巖道)

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

ハナアカリニセツノヒラムシ

Pseudoceros goslineri Newman and Cannon, 1994



(琉球列島西表島・地先)

特徴 体はやや細長い楕円形です。前端には1対の触葉を備えています。背面の地色はくすんだ白色でピンク色とくすんだオレンジ色の小点が点在した、かすり模様のような感じです。中心線ではこれらの点の密度が濃く、縦に細長い不明瞭な斑紋になります。縁部は密生したピンク色と紫の小点で囲まれています。前端では紫の小点の帯が左右の触葉を横断しています。雄性生殖孔はひとつ。

大きさ 体長 70 mm、体幅 28 mm。

分布 琉球列島;インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域。

メ モ 熱帯・亜熱帯域の浅海で、岩や砂泥の上をはっています。

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

チハヤニセツノヒラムシ

Pseudoceros imperatus Newman and Cannon, 1998



(伊豆諸島八丈島・地先)

特徴 背面の地色は暗褐色で、中心線には、前端のやや後方から体後端のやや手前まで幅広い緑色を帯びた淡黄色の縦の帯があります。この帯は細く白い線で縁取られています。帯の前端は二又し、それぞれの分岐が触葉の背面に達してV字型になります。その他の部分には、帯がほぼ垂直に分岐して横帯になっているところや、これが途切れたような楕円形の紋があります。雄性生殖孔はひとつ。

大きさ 体長 17 mm、体幅 13 mm。

分布 房総半島、八丈島、琉球列島。

メ モ 暖温帯域から熱帯域にかけての浅海で、岩の表面をはっています。

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

シシイロニセツノヒラムシ

Pseudoceros memoralis Kato, 1938

特徴 楕円形で、体の前端には1対の触葉を備えています。背面の地色はくすんだ白色で、多数のオレンジ色の小点が点在します。縁部は3本の線で囲まれており、外側はエメラルドグリーンで細く、中央は黒くて幅広く、内側は黄褐色で幅広くなっています。中央と内側の帯は乳白色の線でほぼ等間隔に分断されています。雄性生殖孔はひとつ。

大きさ 体長 17 mm、体幅 12 mm。

分布 房総半島から九州までの日本。

メモ 本種が分布する水域では、レジャーダイビングを楽しむ水深10～20 m に多く、各地で水中写真が撮影されています。



(房総半島鋸南・地先 / 撮影: 高石秀雄)

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

ニッポンニセツノヒラムシ (新称)

Pseudoceros nipponicus Kato, 1944

特徴 楕円形で、体の前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は淡いバラ色で、中心線は淡くなり、大きさの異なった暗色の小円紋が点在しています。縁部は2本の線で囲まれており、外側が黒色、内側がオレンジ色です。雄性生殖孔はひとつ。

大きさ 体長 20 mm、体幅 10 mm。

分布 房総半島、三浦半島、紀伊半島。

メモ 紀伊半島白浜産の標本に基づき新種として記載されましたが、標準和名が与えられていなかったため、ここに写真を掲載した房総半島館山産の標本 (CMNH-ZX 165) に基づき、学名の種小名にちなんだ「ニッポン(日本)ニセツノヒラムシ」の新称を提唱します。

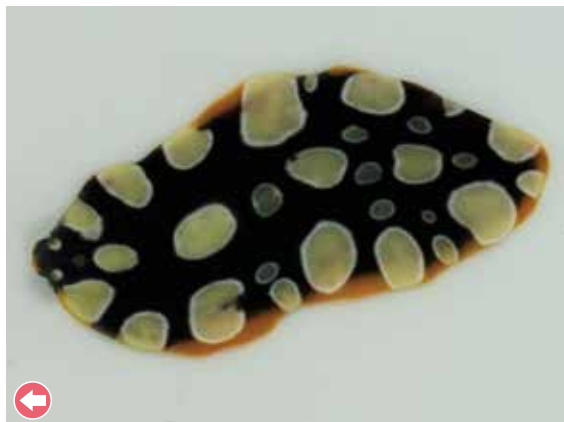


(CMNH-ZX 165 / 房総半島館山・潮間帯)

ニセツノヒラムシ科 Pseudocerotidae

ピンガタニセツノヒラムシ

Pseudoceros scintillatus Newman and Cannon, 1994



(琉球列島奄美大島・地先)

特徴 楕円形で、体の前端には1対の触葉を備えています。背面の地色は暗褐色で、縁部はオレンジ色の線で囲まれています。全体に不規則な形をした白い縁のある淡黄色の紋が点在し、縁部ではオレンジ色の帯にかがっています。体の後ろ半分には、この他に白い縁のある淡灰色の小斑紋も見られます。雄性生殖孔はひとつ。

大きさ 体長 12 mm、体幅 8 mm。

分布 奄美大島以南の琉球列島；インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域。

メモ 熱帯・亜熱帯域の浅海で、岩の表面をはっています。

コラム 普通種なのに名前のないヒラムシ



(房総半島鋸南・地先)



(房総半島館山・地先)

このニセツノヒラムシ科の1種は、日本の暖温帯域では潮間帯や潮下帯の転石下で普通に見られるヒラムシです。体長80mmに達する個体もあり、決して目立たないわけではありませんが、分類学的にはどの「属」に含まれるのかということもわかっていません。本種の標本を観察すると、腹面に複数の雌性生殖孔(P.2参照)と思われる形質が見られます。「属」を決定するには、これらが本当に雌性生殖孔なのか、実際に開口しているのは何個なのかを、複数の個体の組織切片標本を作って精査し、その上で「種」の記載をしていかなければなりません。本種については、今後の研究を待つところです。